

令和6年度 旭川市農福連携実態調査について (報告)

旭川市 福祉保険部 障害福祉課 障害事業係

調査の背景・目的

▶ 社会的背景

近年、全国的に農業分野での労働力不足と障害者の就労機会の創出を同時に解決する「農福連携」への社会的関心が高まっていた。

▶ 旭川市の現状

市内の障害福祉サービス事業所における農福活動の実態が十分に把握されていなかった。

▶ 調査の目的

市内の障害福祉サービス事業所における農福関連活動の活動状況を把握し、持続可能な農業・福祉の推進に向けた基盤構築を目的としている。

本調査の意義： 単なる実態把握にとどまらず、農福連携がもたらす経済的・非経済的効果の両面に着目し、地域に根ざした農福連携モデルの構築を目指している。

農福連携とは（用語説明）

福祉主体型

障害福祉サービス事業所自らが農作物の生産・販売を行う形態。自前の農地または借り受けた農地で事業を展開する。

施設内連携型

障害福祉サービス事業所に作業を持ち込み、施設内で作業を行う形態。選別・袋詰めなどの簡易な作業が中心に展開する。

施設外連携型

障害福祉サービス事業所自らが農作物の生産・販売を行う形態。自前の農地または借り受けた農地で事業を展開する。

報酬体系の種類

時間単価

作業時間に応じて料金が算出される体系。短期的な作業に適している。

単発契約

特定の作業や期間に対して一括で契約する方式。季節的な作業に多い。

継続契約

長期間にわたって継続的に業務を請け負う契約形態。安定した作業量の確保に有効である。

ポイント：調査では複数の連携形態を組み合わせて実施している事業所も複数見られ、地域の実情や事業所の特性に応じた柔軟な取り組みが行われている。

調査実施の概要

▶ 調査期間

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 3 1 日

▶ 調査対象事業所

市内障害福祉サービス事業所 合計 7 8 事業所

- ・ 就労移行支援 : 4 事業所
- ・ 就労継続支援 A 型 : 7 事業所
- ・ 就労継続支援 B 型 : 6 7 事業所

▶ 農業に関わる作業を行っている事業所

1 1 事業所 (1 4 . 1 0 %)

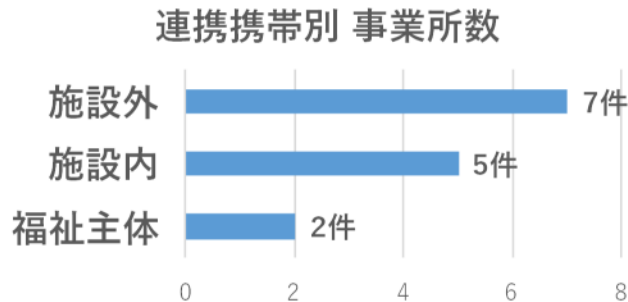
【内訳】

- ・ 就労継続支援 (A 型) : 1 事業所 (全体 : 1 . 2 8 % 、 A 型 : 1 4 . 2 9 %)
- ・ 就労継続支援 (B 型) : 1 0 事業所 (全体 : 1 2 . 8 2 % 、 B 型 : 1 4 . 9 3 %)

調査手法 : 回答を得ることができた事業所の属性や運営形態, 作業内容, 報酬報酬体系、効果、課題等について 詳細な項目を調査した。

主要結果①：連携形態・開始要因

▶ 連携形態の分布



- 施設内連携と施設外連携を組み合わせで活動している事業所が2事業所、福祉主体と施設内連携を組み合わせ事業所が1事業所であった。

▶ 農業活動を開始のきっかけ

主な要因	件数
農業者からの依頼	4 件
新規事業の模索	3 件
行政からの紹介	2 件
支援員の繋がり	1 件
その他	1 件

主要結果②：継続年数

	福祉主体	施設内連携	施設外連携
1 年未満	0件	0件	1件
1 年以上から 3 年未満	0件	0件	2件
3 年以上から 5 年未満	0件	1件	0件
5 年以上から 1 0 年未満	1件	4件	3件
1 0 年以上から 1 5 年未満	1件	0件	1件

- 継続年数は、3 年以上から 1 0 年以上継続の事業所が多く、長期安定運営の傾向がみられる。今後は新規参入及び長期継続の双方を支援する施策が重要となる。
- 比較的長期に渡る取り組みが多いことが特徴であり、施設内での農業活動が、一度開始されると安定的に継続されていた。
- 事業所の内部リソースを活用し、外部環境の変化に左右されにくい構造が長期的な継続を可能にし、その運営モデルの堅牢性が長期的な安定性に繋がっていた。

主要結果③：生産作物品目

▶ 連携形態の分布

品目分類	主な作物	福祉主体	施設内連携	施設外連携
野菜類	トマト、キュウリ、ナス、ピーマン葉物など	○	○	○
芋類	ジャガイモ、サツマイモ、山芋など	○	—	○
米麦類	米、小麦、大豆、小豆など	—	○	○
林産物	キノコ、山菜、木材加工品など	—	○	○
ハーブ・花卉	ラベンダー、ミント、季節の花など	○	○	—

- 農作物の品目については、施設内での栽培が、比較的管理しやすい野菜を中心に、多様な品目へと展開していた。また、野菜や芋類といった、主要農産物市場ニーズが高かったり比較的大規模な生産が可能な品目が選ばれる傾向があった。
- これらの品目が農福連携にとって安定した作業機会を提供しやすいことを示していた。

主要結果④：主な作業内容

	具体的な作業例	福祉主体	施設内連携	施設外連携
体力を必要とする作業	耕起、土寄せ、収穫物運搬など	2件	5件	5件
簡単な単純作業	種まき、草取り、収穫。選別など	1件	1件	3件
経験を要する作業	苗の植え付け、収穫判断、選果など	1件	1件	2件
機械を操作する作業	草刈機操作、軽トラ運転、梱包など	0件	1件	1件
その他	—	1件	0件	1件

- 「体力を要する作業」「簡単な単純作業」「経験を要する作業」等幅広く、除草・収穫・選別・加工・運搬等が主であった。
- また、障害特性に合わせ柔軟に役割分担されている点が特徴であった。

主要結果⑤：稼働状況

▶ 年間稼働日数

	福祉主体	施設内連携	施設外連携
年間の平均稼働日数	201日	48日	85日
年間の平均稼働月数	9か月	4か月	7か月
稼働月の平均稼働日数	22日	13日	13日

▶ 年間利用者・支援者数

	福祉主体	施設内連携	施設外連携
稼働月の平均利用者数	97人	96人	50人
稼働月の平均支援者数	22人	16人	15人
支援員 1 名に対する利用者数	4.3人	6.2人	3.5人

主要結果⑥：請負金額・報酬体系

▶ 請負金額の傾向

	福祉主体	施設内連携	施設外連携
年間の最大請負金額	—	635,250円	8,454,519円
年間の最小請負金額	—	28,970円	18,240円
年間の請負金額の平均	—	282,957円	1,664,270円
稼働月の請負金額の平均	—	74,462円	253,258円

▶ 報酬体系の内訳

	福祉主体	施設内連携	施設外連携
時間	—	0件	2件
単発契約	—	0件	3件
継続契約	—	3件	3件
上記の報酬体系以外	—	2件	4件

取り組みの成果と効果～その1～

No.	取組の効果	福祉主体	施設内連携	施設外連携	合計
1	体力が付き長い時間働ける	1件	2件	5件	8件
2	よく眠れる	1件	0件	3件	4件
3	食欲が増しよく食べられる	0件	0件	1件	1件
4	意欲が高まった	1件	2件	3件	6件
5	表情が明るくなった	0件	0件	3件	3件
6	成功体験を通じて自信が高まった	0件	3件	4件	7件
7	自信が高まった	0件	3件	2件	5件
8	生活リズムが改善	1件	0件	1件	2件
9	コミュニケーション力が高まった	0件	2件	2件	4件
10	挨拶ができるようになった	0件	1件	2件	3件
11	自分で判断してできるようになった	1件	2件	2件	5件
12	地域住民と交流ができるようになった	0件	1件	2件	3件
13	他者への気配りができるようになった	1件	2件	3件	6件
14	出勤率が向上	0件	0件	1件	1件
15	理解力が増して作業スピードが上がった	1件	3件	3件	7件

取り組みの成果と効果 ～その2～

- ▶ 農福連携が利用者の身体的・精神的健康、社会性、自立性、就労能力の向上に幅広く貢献していることを把握した。
- ▶ 特に「意欲が高まった」「表情が明るくなった」「自信が高まった」「コミュニケーション力が高まった」といった精神面や社会性の向上については、農業活動が利用者の自己肯定感を高め、社会との接点を増やす上で有効な手段であった。
- ▶ 「出勤率が向上」「理解力が増して作業スピードが上がった」といった就労に直結する効果も普遍的にあることを把握でき、農福連携が障害者の就労支援において具体的な成果を上げていた。

結論

▶ 調査の主要な発見

- ・旭川市内では様々な形態（福祉主体型、施設内連携型、施設外連携型）で農福連携が行われており、多様な作物生産と作業内容が確認された。
- ・事業所の約14.1%が農業活動に参与していた。

▶ 農福連携の価値

- ・経済的側面だけでなく、利用者の体力向上、意欲向上、自信向上、コミュニケーション力の向上など、非経済的な価値が特に重要であることが明らかになった。
- ・農福連携は単なる就労支援を超えた包括的な取り組みに寄与していた。

農福連携の本質：農福連携は農業と福祉の単純な組み合わせではなく、「働くことを通じた生きがいの創出」と「地域における共生社会の実現」という大きな社会的価値を生み出している。

■ 令和 7 年度以降の旭川市農福連携実態調査について

今後の調査の実施については、市内の情勢の変化や調査結果の活用状況等を総合的に判断し、今後は毎年決まった時期に実施するのではなく、必要に応じて最適なタイミングで実施する方針とします。

これにより、より効果的かつ効率的な形で皆様のご意見を伺い、その結果を迅速に改善に繋げていくことを目指します。

具体的な調査実施の際には、本調査を実施する際に、改めて皆様に詳細をご案内いたしますので、その際にはご協力をお願いします。

なお、本市で実施したマッチング・相談支援の実施情報の共有につきましては、適宜メールやホームページ等を活用して実施しますので、今後とも、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、障害福祉課障害事業係担当者までお問い合わせください。